

## 17. 保険会社およびその子会社等の状況

### (1) 主要な業務の状況を示す指標

(単位：億円)

項目	平成22年度	平成23年度
経常収益	48,228	61,162
経常利益	2,289	3,740
当期純剰余	1,313	1,727
包括利益	△204	4,971

項目	平成22年度末	平成23年度末
総資産	271,285	297,277
ソルベンシー・マージン比率	—	777.8%

### (2) 連結範囲および持分法の適用に関する事項

連結される子会社および子法人等数	5社
持分法適用の非連結子会社および子法人等数	0社
持分法適用の関連法人等数	1社

(3) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成22年度末	平成23年度末	科 目	平成22年度末	平成23年度末
	(平成23年3月31日現在)	(平成24年3月31日現在)		(平成23年3月31日現在)	(平成24年3月31日現在)
	金 額	金 額		金 額	金 額
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	273,106	271,989	保険契約準備金	24,288,965	26,928,557
コールローン	233,000	307,000	支払準備金	159,270	119,902
買入金銭債権	277,381	269,101	責任準備金	23,811,692	26,512,400
有価証券	19,391,838	22,187,931	社員配当準備金	318,003	296,253
貸付金	5,097,175	4,981,415	代理店借	15	9
有形固定資産	1,020,156	981,948	再保険借	1,457	1,196
土地	645,357	632,052	その他負債	1,203,181	750,763
建物	343,714	344,666	退職給付引当金	714	736
建設仮勘定	27,240	1,071	役員退職慰労引当金	650	545
その他の有形固定資産	3,844	4,158	偶発損失引当金	3,592	3,115
無形固定資産	55,485	52,475	価格変動準備金	242,687	251,328
ソフトウェア	36,803	33,941	再評価に係る繰延税金負債	114,364	88,539
その他の無形固定資産	18,681	18,533	支払承諾	22,000	24,315
代理店貸	1,736	1,577	負債の部合計	25,877,630	28,049,107
再保険貸	1,241	1,366	(純資産の部)		
その他資産	436,791	512,163	基金	60,000	110,000
繰延税金資産	335,337	147,144	基金償却積立金	410,000	410,000
支払承諾見返	22,000	24,315	再評価積立金	452	452
貸倒引当金	△16,726	△10,666	連結剰余金	200,018	255,484
			基金等合計	670,471	775,936
			その他有価証券評価差額金	528,675	827,866
			繰延ヘッジ損益	△5,213	△1,524
			土地再評価差額金	72,823	95,096
			為替換算調整勘定	△21,061	△22,393
			その他の包括利益累計額合計	575,223	899,044
			少数株主持分	5,200	3,674
			純資産の部合計	1,250,894	1,678,655
資産の部合計	27,128,525	29,727,763	負債及び純資産の部合計	27,128,525	29,727,763

## (4) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## (連結損益計算書)

(単位：百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度
	(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)	(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)
	金 額	金 額
<b>経常収益</b>	<b>4,822,825</b>	<b>6,116,284</b>
保険料等収入	3,963,619	5,203,236
資産運用収益	670,902	699,505
利息及び配当金等収入	530,694	580,911
金銭の信託運用益	2	0
有価証券売却益	74,484	15,612
有価証券償還益	—	21
金融派生商品収益	65,656	72,353
貸倒引当金戻入額	—	5,304
その他運用収益	64	3,373
特別勘定資産運用益	—	21,926
その他経常収益	188,303	213,543
<b>経常費用</b>	<b>4,593,890</b>	<b>5,742,212</b>
保険金等支払金	2,215,995	2,288,346
保険金	716,838	707,509
年金	446,719	481,200
給付金	493,991	467,911
解約返戻金	463,142	448,417
その他返戻金等	95,303	183,307
責任準備金等繰入額	1,556,481	2,702,221
支払備金繰入額	24,409	—
責任準備金繰入額	1,531,272	2,701,675
社員配当金積立利息繰入額	799	546
資産運用費用	190,170	111,965
支払利息	3,344	3,262
売買目的有価証券運用損	—	0
有価証券売却損	130,164	66,945
有価証券評価損	21,292	18,428
有価証券償還損	2,451	2,072
為替差損	580	447
貸倒引当金繰入額	561	—
賃貸用不動産等減価償却費	10,631	10,283
その他運用費用	11,267	10,523
特別勘定資産運用損	9,875	—
事業費用	388,421	411,677
その他経常費用	242,821	228,002
<b>経常利益</b>	<b>228,934</b>	<b>374,071</b>
<b>特別利益</b>	<b>1,588</b>	<b>955</b>
固定資産等処分益	1,588	950
その他特別利益	—	5
<b>特別損失</b>	<b>85,378</b>	<b>47,267</b>
固定資産等処分損	14,472	11,461
減損損失	9,397	25,435
偶発損失引当金繰入額	670	1
価格変動準備金繰入額	57,449	8,650
不動産圧縮損	—	474
社会厚生事業増進助成金	552	553
その他特別損失	2,836	691
税金等調整前当期純剰余	145,143	327,760
法人税及び住民税等	21,031	38,653
法人税等調整額	△7,433	117,653
法人税等合計	13,597	156,307
少数株主損益調整前当期純剰余	131,545	171,453
少数株主利益(△は少数株主損失)	199	△1,288
当期純剰余	131,346	172,741

## (連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度
	(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)	(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)
	金 額	金 額
少数株主損益調整前当期純剰余	131,545	171,453
その他の包括利益	△152,022	325,685
その他有価証券評価差額金	△150,153	299,190
繰延ヘッジ損益	1,305	3,689
土地再評価差額金	473	24,136
為替換算調整勘定	△3,647	△1,331
包 括 利 益	△20,477	497,138
親会社に係る包括利益	△20,676	498,427
少数株主に係る包括利益	199	△1,288

## (5) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度
	(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)	(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)
	金 額	金 額
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純剰余 (△は損失)	145,143	327,760
賃貸用不動産等減価償却費	10,631	10,283
減価償却費	23,439	22,064
減損損失	9,397	25,435
支払備金の増減額 (△は減少)	24,300	△39,347
責任準備金の増減額 (△は減少)	1,531,417	2,701,960
社員配当準備金積立利息繰入額	799	546
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,591	△6,060
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	102	24
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△73	△105
偶発損失引当金の増減額 (△は減少)	△217	△476
価格変動準備金の増減額 (△は減少)	57,449	8,650
利息及び配当金等収入	△530,694	△580,911
有価証券関係損益 (△は益)	119,310	28,574
支払利息	3,344	3,262
為替差損益 (△は益)	△238	142
有形固定資産関係損益 (△は益)	13,306	10,593
持分法による投資損益 (△は益)	—	88
代理店貸の増減額 (△は増加)	△74	158
再保険貸の増減額 (△は増加)	1,269	△126
その他資産(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額 (△は増加)	31,386	△26,673
代理店借の増減額 (△は減少)	6	△6
再保険借の増減額 (△は減少)	△1,020	△260
その他負債(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額 (△は減少)	13,669	7,083
その他	△2,844	1,264
小 計	1,451,404	2,493,926
利息及び配当金等の受取額	533,939	584,690
利息の支払額	△3,396	△3,289
社員配当金の支払額	△136,545	△140,717
法人税等の支払額	△3,048	△25,593
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,842,353</b>	<b>2,909,016</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
預貯金の純増減額 (△は増加)	△2,906	430
買入金銭債権の取得による支出	△20,100	△16,400
買入金銭債権の売却・償還による収入	19,415	57,814
有価証券の取得による支出	△7,031,730	△5,715,851
有価証券の売却・償還による収入	4,316,199	3,034,631
貸付けによる支出	△1,202,334	△1,566,250
貸付金の回収による収入	1,597,136	1,646,476
債券貸借取引受入担保金の増減額 (△は減少)	381,239	△297,727
資産運用活動計 (営業活動及び資産運用活動計)	△1,943,082 (△100,729)	△2,856,877 (52,139)
有形固定資産の取得による支出	△26,700	△22,558
有形固定資産の売却による収入	12,807	8,018
無形固定資産の取得による支出	△9,323	△10,898
その他	303	△1,801
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,965,995</b>	<b>△2,884,116</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
借入れによる収入	545	425
借入金の返済による支出	△618	△373
基金の募集による収入	60,000	50,000
基金の償却による支出	△60,000	—
基金利息の支払額	△1,043	△774
その他	△238	△237
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,354</b>	<b>49,040</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,607	△572
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△126,603	73,368
現金及び現金同等物期首残高	626,482	499,878
現金及び現金同等物期末残高	499,878	573,247

(6) 連結基金等変動計算書

(単位：百万円)

科 目	平成22年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	平成23年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
	金 額	金 額
基金等		
基金		
当期首残高	60,000	60,000
当期変動額		
基金の募集	60,000	50,000
基金の償却	△ 60,000	—
当期変動額合計	—	50,000
当期末残高	60,000	110,000
基金償却積立金		
当期首残高	350,000	410,000
当期変動額		
基金償却積立金の積立	60,000	—
当期変動額合計	60,000	—
当期末残高	410,000	410,000
再評価積立金		
当期首残高	452	452
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	452	452
連結剰余金		
当期首残高	247,275	200,018
当期変動額		
社員配当準備金の積立	△ 123,038	△ 118,365
基金利息の支払	△ 1,043	△ 774
当期純剰余	131,346	172,741
基金償却準備金の取崩	△ 60,000	—
土地再評価差額金の取崩	5,479	1,864
当期変動額合計	△ 47,256	55,465
当期末残高	200,018	255,484
基金等合計		
当期首残高	657,728	670,471
当期変動額		
基金の募集	60,000	50,000
社員配当準備金の積立	△ 123,038	△ 118,365
基金償却積立金の積立	60,000	—
基金利息の支払	△ 1,043	△ 774
当期純剰余	131,346	172,741
基金の償却	△ 60,000	—
基金償却準備金の取崩	△ 60,000	—
土地再評価差額金の取崩	5,479	1,864
当期変動額合計	12,743	105,465
当期末残高	670,471	775,936

(単位：百万円)

科 目	平成22年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	平成23年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
	金 額	金 額
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	678,829	528,675
当期変動額		
基金等以外の項目の当期変動額（純額）	△ 150,153	299,190
当期変動額合計	△ 150,153	299,190
当期末残高	528,675	827,866
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	△ 6,519	△ 5,213
当期変動額		
基金等以外の項目の当期変動額（純額）	1,305	3,689
当期変動額合計	1,305	3,689
当期末残高	△ 5,213	△ 1,524
土地再評価差額金		
当期首残高	77,829	72,823
当期変動額		
基金等以外の項目の当期変動額（純額）	△ 5,005	22,272
当期変動額合計	△ 5,005	22,272
当期末残高	72,823	95,096
為替換算調整勘定		
当期首残高	△ 17,413	△ 21,061
当期変動額		
基金等以外の項目の当期変動額（純額）	△ 3,647	△ 1,331
当期変動額合計	△ 3,647	△ 1,331
当期末残高	△ 21,061	△ 22,393
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	732,725	575,223
当期変動額		
基金等以外の項目の当期変動額（純額）	△ 157,501	323,821
当期変動額合計	△ 157,501	323,821
当期末残高	575,223	899,044
少数株主持分		
当期首残高	5,256	5,200
当期変動額		
基金等以外の項目の当期変動額（純額）	△ 56	△ 1,526
当期変動額合計	△ 56	△ 1,526
当期末残高	5,200	3,674

(単位：百万円)

科 目	平成22年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	平成23年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
	金 額	金 額
純資産合計		
当期首残高	1,395,710	1,250,894
当期変動額		
基金の募集	60,000	50,000
社員配当準備金の積立	△ 123,038	△ 118,365
基金償却積立金の積立	60,000	—
基金利息の支払	△ 1,043	△ 774
当期純剰余	131,346	172,741
基金の償却	△ 60,000	—
基金償却準備金の取崩	△ 60,000	—
土地再評価差額金の取崩	5,479	1,864
基金等以外の項目の当期変動額（純額）	△ 157,558	322,295
当期変動額合計	△ 144,815	427,761
当期末残高	1,250,894	1,678,655

## 注記事項

(連結財務諸表の作成方針)

平成23年度  
(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結される子会社および子法人等数 5社

連結される子会社および子法人等は、明治安田損害保険株式会社、明治安田アセットマネジメント株式会社、明治安田システム・テクノロジー株式会社、Pacific Guardian Life Insurance Company, Limited、Meiji Yasuda Realty USA Incorporatedであります。

主要な非連結の子会社および子法人等は、明治安田ライフプランセンター株式会社であります。

非連結の子会社および子法人等は、総資産、売上高、当期損益および(利益)剰余金の観点からみて、いずれもそれぞれ小規模であり、当企業集団の財政状態と経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除いております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結の子会社および子法人等数 0社

(2) 持分法適用の関連法人等数 1社

持分法適用の関連法人等はHaier Meiji Yasuda Life Insurance Co., Ltd.であります(Haier Meiji Yasuda Life Insurance Co., Ltd.は、平成24年4月にFounder Meiji Yasuda Life Insurance Co., Ltd.に商号変更しております)。

(3) 持分法を適用していない非連結の子会社および子法人等(明治安田ライフプランセンター株式会社ほか)ならびに関連法人等については、それぞれ連結損益および連結剰余金に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法を適用しておりません。

### 3. 連結される子会社および子法人等の事業年度等に関する事項

連結される子会社および子法人等のうち、在外子会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の決算財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

### 4. のれんの償却に関する事項

のれんおよびのれん相当額は、定額法により20年間で償却しております。ただし、重要性が乏しいものについては、発生連結会計年度に全額償却しております。

## 注記事項

### (連結貸借対照表関係)

平成23年度(平成24年3月31日現在)

1. 親会社の保有する有価証券の評価基準および評価方法は次のとおりであります。

有価証券(現金及び預貯金・買入金銭債権のうち有価証券に準じるものを含む)の評価は、売買目的有価証券については3月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式(保険業法第2条第12項に規定する子会社および保険業法施行令第13条の5の2第3項に規定する子法人等のうち子会社を除いたものならびに同条第4項に規定する関連法人等が発行する株式をいう)については移動平均法による原価法、その他有価証券で時価のあるもののうち株式については3月中の市場価格等の平均、それ以外については3月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は移動平均法)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては取得差額が金利調整差額と認められる公社債(外国債券を含む)については移動平均法による償却原価法(定額法)、それ以外の有価証券については移動平均法による原価法によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

2. デリバティブ取引の評価は時価法によっております。

3. 親会社は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。なお、評価差額については、評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 平成12年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第1号に定める「地価公示法の規定により公示された価格」に奥行補正等の合理的な調整を行って算定

なお、平成16年1月1日付の合併により安田生命保険相互会社から承継した土地再評価差額金に係る再評価の年月日および方法は次のとおりであります。

再評価を行った年月日 平成13年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第1号に定める「地価公示法の規定により公示された価格」に奥行補正等の合理的な調整を行って算定したほか、第5号に定める「鑑定評価」に基づいて算出

4. 親会社の保有する有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。

#### ・建物

- ① 平成19年3月31日以前に取得したもの

旧定額法によっております。

- ② 平成19年4月1日以降に取得したもの

定額法によっております。

#### ・建物以外

- ① 平成19年3月31日以前に取得したもの

旧定率法によっております。

- ② 平成19年4月1日以降に取得したもの

定率法によっております。

5. 外貨建資産・負債(子会社株式及び関連会社株式は除く)は、決算日の為替相場により円換算しております。なお、子会社株式及び関連会社株式は、取得時の為替相場により円換算しております。
6. 親会社の貸倒引当金は、資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的・形式的な経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という)に対する債権および実質的に経営破綻に陥っている債務者(以下「実質破綻先」という)に対する債権については、下記直接減額後の債権額から担保の回収可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額および保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。
- すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。
- なお、破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額および保証等による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は111百万円であります。
7. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、退職給付に係る会計基準(「退職給付に係る会計基準の設定に関する意見書」平成10年6月16日企業会計審議会)に基づき、当連結会計年度末において発生したと認められる額を計上しております。
8. 親会社の役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、支給見込額のうち、当連結会計年度末において発生したと認められる額を計上しております。
- なお、親会社は平成19年度の報酬委員会において、平成20年6月30日をもって退職慰労金制度を廃止することを決議し、制度廃止日以降在任役員に係る繰入を実施しておりません。
9. 偶発損失引当金は、保険業法施行規則第24条の4の規定に基づく引当金であり、主に、債権流動化に関し将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。
10. 親会社および国内保険連結子会社の価格変動準備金は、保険業法第115条の規定により算出した額を計上しております。
11. 親会社ならびに国内の連結される子会社および子法人等は、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
12. ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」(平成20年3月10日 企業会計基準委員会)に従い、主に、貸付金および借入金に対するキャッシュ・フローのヘッジとして金利スワップの特例処理、外貨建債券に対する為替変動リスクのヘッジとして為替予約による時価ヘッジを行っております。
- なお、平成21年度より保険契約に係る金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップ取引を利用しており、業種別監査委員会報告第26号「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(平成14年9月3日 日本公認会計士協会)に基づき繰延ヘッジ処理を行っております。ヘッジ有効性の評価は、ヘッジ対象とヘッジ手段双方の理論価格の算定に影響を与える金利の状況を検証することにより行っております。
13. 親会社の責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しています。
- (1) 標準責任準備金の対象契約については、内閣総理大臣が定める方式(平成8年大蔵省告示第48号)
- (2) 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式

なお、責任準備金には、保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき、平成8年4月1日以前に契約締結した個人年金保険契約について、予定利率2.75%を用いて保険料積立金を計算したことにより生じた差額を追加して積み立てることとしたもの(平成19年度から3年間にわたる積立てを完了。なお、年金開始する契約の年金開始後部分は、平成22年度以降も年金開始の都度積立て)が含まれております。

14. 親会社の消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生連結会計年度に費用処理しております。

15. 無形固定資産に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間に基づく定額法により行っております。

16. 当連結会計年度より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(平成21年12月4日 企業会計基準委員会)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(平成21年12月4日 企業会計基準委員会)を適用しております。また、保険業法施行規則の改正に伴い、以下のとおり表示方法を変更しております。

(1) 連結損益計算書において、従来、特別利益に表示していた貸倒引当金戻入額を、資産運用収益に含めて表示しております。

(2) 連結基金等変動計算書において、従来、前期末残高と表示していたものを、当期首残高として表示しております。

17. 当連結会計年度における金融商品の状況に関する事項および金融商品の時価等に関する事項は、次のとおりであります。

(1) 金融商品の状況に関する事項

親会社の保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、経済価値で評価した資産と負債の差額であるサープラスを健全性指標の一つとして捉え、サープラスの変動性(リスク)に着目するサープラス・マネジメント型ALMによっております。

親会社は、この方針に基づき、具体的な金融資産として、主に有価証券および貸付金に投資しております。有価証券は、主として債券、株式、投資信託および組合出資金等で保有しており、貸付金は、主に国内の取引先に対する貸付であります。

また、デリバティブについては、運用資産または保険負債のリスクに対する主要なヘッジ手段と位置付けており、原則として、ヘッジ目的に利用を限定しております。ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」(平成20年3月10日 企業会計基準委員会)に従い、主に、貸付金に対するキャッシュ・フローのヘッジとして金利スワップの特例処理、外貨建債券に対する為替変動リスクのヘッジとして為替予約による時価ヘッジ、金利スワップによる保険負債の金利リスクヘッジを行っております。

なお、有価証券は市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスクおよび価格変動リスク等)および信用リスク、貸付金は信用リスクおよび金利の変動リスク、デリバティブ取引は市場リスクおよび信用リスクに晒されております。

借入金は、変動金利の借入を行っており、金利の変動リスクに晒されております。

親会社では、金利の変動リスクの管理に関しては、サープラス・マネジメントの観点から、超長期債購入による持続的・安定的な資産デュレーションの長期化および金利スワップによる保険負債の金利リスクヘッジ等により、負債も含めた経済価値ベースの変動リスクを管理しております。為替の変動リスクの管理に関しては、リスク水準の適切なコントロールのため必要に応じ為替予約等を利用し、為替リスクのヘッジを行っております。価格変動リスクを含めた市場リスクの管理に関しては、有価証券やデリバティブ取引について残高および

損益状況を一元的に管理しているほか、適宜、限度枠を設定することで損失を一定範囲に収める仕組みを導入しております。

さらに、親会社では、VaR手法による最大予想損失額の測定に加えて、通常の予測を超えた急激な市場変動が発生する事態も想定して、ストレステストを定期的に行っております。また、これらの損益状況やルールの遵守状況は、資産運用リスク管理部署が監視し、資産運用リスク管理分科委員会に定期的に(緊急時は遅滞なく)報告を行うほか、重要なものは取締役会等に報告しております。

信用リスクの管理にあたっては、個別取引ごとに、リスクを慎重に見極め、安全性が高いと判断される対象に限定して運用を行っております。なお、信用リスク判断が特に重要な企業向け貸付については、審査管理部署において、厳正な審査体制の確保、信用供与先に対するモニタリング、企業審査手法を活用した社内信用格付制度を実施するとともに、重要度の高い案件については、資産運用会議(経営会議)等で慎重に検討のうえ決裁する体制となっております。また、リスクが特定企業・グループ等に集中することのないよう信用度に応じた与信枠を設定し、管理を行う等運用先の分散を図っております。

デリバティブ取引に関しては、利用方針等を規定化するとともに、取引種類別の残高制限および取引先ごとの与信枠を設定するなどしてリスクを抑制するとともに、取引を執行する部署と事務管理部署を分離し、内部牽制が働く組織体制をとり、適切なリスク管理を行っております。

親会社ならびに子会社および子法人等では、金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

当連結会計年度末における主な金融資産および金融負債に係る連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
現金及び預貯金	271,989	271,989	△0
その他有価証券(譲渡性預金)	21,999	21,999	-
買入金銭債権	243,976	256,208	12,232
満期保有目的の債券	213,307	225,539	12,232
その他有価証券	30,669	30,669	-
有価証券	21,267,441	21,571,290	303,849
売買目的有価証券	663,744	663,744	-
満期保有目的の債券	6,160,911	6,464,760	303,849
その他有価証券	14,442,785	14,442,785	-
貸付金	4,981,415	5,133,656	152,240
保険約款貸付	334,312	334,312	-
一般貸付	4,647,103	4,799,344	152,240
貸倒引当金(*1)	△7,810	-	-
	4,973,605	5,133,656	160,050
債券貸借取引受入担保金	368,081	368,081	-
借入金	100,195	100,195	-
金融派生商品(*2)	(9,328)	(9,328)	-
ヘッジ会計が適用されていないもの	7	7	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(9,335)	(9,335)	-

(\*1)貸付金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しております。

(\*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

## (注1) 金融商品の時価の算定方法

## ・資産

## ① 現金及び預貯金

約定期間が短期であることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額等を時価としております。「金融商品に関する会計基準」(平成20年3月10日 企業会計基準委員会)に基づく有価証券として取り扱うものについては、③有価証券と同様に評価しております。

## ② 買入金銭債権

買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」(平成20年3月10日 企業会計基準委員会)に基づく有価証券として取り扱うものについては、③有価証券と同様に評価しており、主に、取引相手先から入手した、将来キャッシュ・フローを現在価値に割引く方法により算定された価額を時価としております。

なお、一部の劣後信託受益権については、将来キャッシュ・フローの算定が難しいなど時価を把握することが極めて困難と認められるため時価開示の対象とはしておらず、買入金銭債権に含めておりません。当該信託受益権の当連結会計年度末における連結貸借対照表価額は、25,124百万円であります。

## ③ 有価証券

その他有価証券のうち市場価格のある国内株式については、3月中の市場価格の平均等によっております。上記以外の有価証券については3月末日の市場価格等によっております。

なお、市場価格がない非上場株式等については、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象とはしておらず、有価証券に含めておりません。当該非上場株式等の当連結会計年度末における連結貸借対照表価額は、920,490百万円であります。また、当連結会計年度において、非上場株式等について295百万円減損処理を行っております。

## ④ 貸付金

保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込期間および金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

一般貸付の時価については、主に、将来キャッシュ・フローを現在価値に割引いた価格によっております。なお、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する貸付金については、直接減額前の帳簿価額から貸倒見積高を控除した額を時価としております。

## ・負債

## ① 債券貸借取引受入担保金

約定期間が短期であることから、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、当該帳簿価額を時価としております。

## ② 借入金

借入金は、変動金利によるものであり、短期間で市場金利を反映し、また、親会社の信用状態は借入後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

## ・金融派生商品

① 株価指数先物、債券先物等の取引所取引の時価については、3月末日の終値または清算価格等によっております。

② 外国為替予約等の店頭取引の時価については、3月末日のTTM、WMロイターレート、割引レート等を基準とした理論価格または取引相手先から入手した3月末日の時価によっております。

平成23年度(平成24年3月31日現在)

③ 金利スワップ取引の時価については、将来キャッシュ・フローの差額を現在価値に割り引いた理論価格または取引相手先から入手した3月末日の時価等によっております。

なお、金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている貸付金と一体として処理されているため、その時価は、当該貸付金の時価に含めて記載しております。

(注2) 保有目的ごとの有価証券に関する注記事項

① 売買目的有価証券において、当連結会計年度の損益に含まれた評価差額は32,443百万円であります。

② 満期保有目的の債券において、種類ごとの連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。

(単位:百万円)

	種類	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	①国債・地方債等	5,470,609	5,748,698	278,088
	②社債	527,745	554,539	26,793
	③その他	295,130	309,140	14,009
	合計	6,293,486	6,612,378	318,891
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	①国債・地方債等	40,039	39,180	△858
	②社債	8,874	8,610	△263
	③その他	31,818	30,131	△1,687
	合計	80,732	77,922	△2,810

(\*)本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めております。

③ その他有価証券の当連結会計年度中の売却額は1,544,857百万円であり、売却益の合計額は15,612百万円、売却損の合計額は67,294百万円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの取得原価または償却原価、連結貸借対照表計上額およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	種類	取得原価 または 償却原価	連結貸借対照表 計上額	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えるもの	(1)株式	1,216,165	1,930,288	714,122
	(2)債券	8,637,767	9,079,375	441,607
	①国債・地方債等	7,740,031	8,146,966	406,934
	②社債	897,736	932,409	34,673
	(3)その他	2,148,754	2,296,653	147,899
	合計	12,002,687	13,306,318	1,303,630
連結貸借対照表計上額が取得原価または償却原価を超えないもの	(1)株式	509,490	467,866	△41,623
	(2)債券	113,404	111,947	△1,457
	①国債・地方債等	58,311	58,303	△8
	②社債	55,092	53,644	△1,448
	(3)その他	672,914	609,321	△63,592
	合計	1,295,809	1,189,136	△106,673

(\*)本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めております。

④ 上記の表中にある「取得原価または償却原価」は減損処理後の帳簿価額であります。当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式等について18,133百万円減損処理を行っております。

平成23年度(平成24年3月31日現在)

(注3) 金銭債権および満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預貯金	271,388	-	-	-	-	-
買入金銭債権	-	-	2,006	-	-	241,969
貸付金(*)	570,653	1,007,397	945,452	626,254	645,716	848,454
有価証券						
満期保有目的 の債券	579,627	951,845	421,101	289,517	541,976	3,376,379
その他有価証 券のうち満期 があるもの	116,887	305,305	364,431	916,996	1,464,783	8,817,623
合計	1,538,556	2,264,548	1,732,992	1,832,768	2,652,477	13,284,427

(\*)貸付金のうち、破産更生債権等、償還予定額が見込めない486百万円は含めておりません。

(\*)貸付金のうち、保険約款貸付については、償還期限がないので含めておりません。

(注4) 債券貸借取引受入担保金および借入金の決算日後の返済予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
債券貸借取引 受入担保金	195	-	-	-	100,000	-
借入金	368,081	-	-	-	-	-
合計	368,277	-	-	-	100,000	-

18. 親会社および一部の子会社では、東京都その他の地域において賃貸用のオフィスビル等を有しており、当連結会計年度末における当該賃貸等不動産の連結貸借対照表価額は581,038百万円、時価は611,638百万円です。なお、時価の算定にあたっては、主として不動産鑑定士による鑑定評価(指標等を用いて調整を行ったものを含む)によっております。

19. 貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権、3ヵ月以上延滞債権および貸付条件緩和債権の額は、24,141百万円です。なお、それぞれの内訳は以下のとおりです。

貸付金のうち、破綻先債権額は84百万円、延滞債権額は3,757百万円です。

上記取立不能見込額の直接減額は、破綻先債権額91百万円、延滞債権額20百万円です。

なお、破綻先債権とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。

貸付金のうち、3ヵ月以上延滞債権額はありません。

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸付金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものであります。

貸付金のうち、貸付条件緩和債権額は20,300百万円です。

なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金であります。

平成23年度(平成24年3月31日現在)

20. 有形固定資産の減価償却累計額は、432,522百万円であります。
21. 保険業法第118条第1項の規定による特別勘定の資産の額は、712,519百万円であります。  
 なお、同勘定の負債の額も同額であります。
22. 社員配当準備金の異動状況は次のとおりであります。
- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 当連結会計年度期首現在高       | 318,003百万円 |
| 前連結会計年度連結剰余金よりの繰入額 | 118,365百万円 |
| 当連結会計年度社員配当金支払額    | 140,717百万円 |
| 利息による増加等           | 602百万円     |
| 当連結会計年度末現在高        | 296,253百万円 |
23. 保険業法第60条の規定により基金を50,000百万円新たに募集いたしました。
24. 担保に供されている資産の額は、有価証券3,536百万円であります。
25. 消費貸借契約により貸し付けている有価証券(現金担保付債券貸借取引による有価証券を含む)の連結貸借対照表価額は、927,930百万円であります。
26. 貸付金に係るコミットメントライン契約等の融資未実行残高は、15,241百万円であります。
27. その他負債には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金100,000百万円を含んでおります。
28. 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当連結会計年度末における今後の負担見積額は48,862百万円であります。  
 なお、当該負担金は拠出した連結会計年度の事業費として処理しております。
29. 退職給付債務に関する事項は次のとおりであります。
- (1) 退職給付債務およびその内訳
- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| イ. 退職給付債務              | △347,029百万円 |
| ロ. 年金資産                | 298,489百万円  |
| うち退職給付信託               | 131,911百万円  |
| ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ)      | △48,539百万円  |
| ニ. 未認識数理計算上の差異         | 129,938百万円  |
| ホ. 未認識過去勤務債務           | △7,302百万円   |
| ヘ. 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ) | 74,095百万円   |
| ト. 前払年金費用              | 74,832百万円   |
| チ. 退職給付引当金(ヘ+ト)        | △736百万円     |
- (2) 退職給付債務等の計算基礎
- |                   |        |
|-------------------|--------|
| イ. 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| ロ. 割引率            | 2.0%   |
| ハ. 期待運用収益率        |        |
| 確定給付企業年金          | 3.0%   |
| 退職給付信託            | 0.0%   |
| ニ. 数理計算上の差異の処理年数  | 10年    |
| ホ. 過去勤務債務の額の処理年数  | 10年    |
30. 非連結の子会社等の株式等は、18,553百万円であります。

31. 繰延税金資産の総額は、528,474百万円、繰延税金負債の総額は、374,566百万円です。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、6,763百万円です。

繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金347,059百万円および価格変動準備金77,169百万円です。

繰延税金負債の発生の主なものは、その他有価証券の評価差額338,402百万円です。

当連結会計年度における法定実効税率は36.15%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主な内訳は、税率変更による期末繰延税金資産の減額修正に係る26.12%および社員配当準備金に係る△14.39%です。

なお、「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)の公布に伴い、親会社の見積実効税率等の計算に使用する法定実効税率36.15%は、回収または支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものについては33.28%、平成27年4月1日以降のものについては30.73%にそれぞれ変更されています。

この変更により、当連結会計年度末における繰延税金資産は20,412百万円、再評価に係る繰延税金負債は16,247百万円それぞれ減少し、法人税等調整額は85,616百万円増加しています。

注記事項  
(連結損益計算書関係)

平成23年度  
(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

1. 退職給付費用の総額は、20,569百万円であります。なお、その内訳は以下のとおりです。

イ. 勤務費用	11,188百万円
ロ. 利息費用	7,205百万円
ハ. 期待運用収益	△5,095百万円
ニ. 数理計算上の差異の費用処理額	10,137百万円
ホ. 過去勤務債務の費用処理額	△2,868百万円
ヘ. その他	1百万円

2. その他特別損失は、東日本大震災に伴う復旧費用等であります。

3. 親会社の当連結会計期間における減損損失に関する事項は、次のとおりであります。

(1) 資産のグルーピング方法

保険事業等の用に供している不動産等については、保険事業等全体で1つの資産グループとしております。また、保険事業等の用に供していない賃貸不動産等および遊休不動産等については、それぞれの物件ごとに1つの資産グループとしております。

(2) 減損損失の認識に至った経緯

不動産市況の悪化等により、一部の資産グループに著しい収益性の低下または時価の下落が見られたことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(3) 減損損失を認識した資産グループと減損損失計上額の固定資産の種類ごとの内訳

用途	件数	減損損失(百万円)		
		土地	建物	計
賃貸不動産等	4件	717	1,121	1,839
遊休不動産等	66件	3,301	19,386	22,688
合計	70件	4,019	20,508	24,527

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、賃貸不動産等については物件により使用価値または正味売却価額を、遊休不動産等については正味売却価額を適用しております。なお、使用価値については見積乖離リスクを反映させた将来キャッシュ・フローを2.35%で割り引いて算定しております。また、正味売却価額については不動産鑑定評価基準に基づく鑑定評価額等から処分費用見込額を差し引いた価額、または公示価格等を基準にした評価額等をもとに算定しております。

注記事項

(連結包括利益計算書関係)

平成23年度 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)	
1. その他の包括利益の内訳	
その他有価証券評価差額金	
当期発生額	303,522百万円
組替調整額	63,146百万円
税効果調整前	366,668百万円
税効果額	△67,478百万円
その他有価証券評価差額	299,190百万円
繰延ヘッジ損益	
当期発生額	6,380百万円
組替調整額	△1,412百万円
税効果調整前	4,968百万円
税効果額	△1,279百万円
繰延ヘッジ損益	3,689百万円
土地再評価差額金	
当期発生額	—
組替調整額	—
税効果調整前	—
税効果額	24,136百万円
土地再評価差額金	24,136百万円
為替換算調整勘定	
当期発生額	△1,331百万円
組替調整額	—
税効果調整前	△1,331百万円
税効果額	—
為替換算調整勘定	△1,331百万円
その他の包括利益合計	325,685百万円

注記事項

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

平成23年度

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

1. 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなります。
2. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表上に記載されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

現金及び預貯金	266,071百万円
コールローン	307,000百万円
有価証券	175百万円
現金及び現金同等物	573,247百万円

## (7) リスク管理債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	平成22年度末	平成23年度末
破綻先債権額	187	84
延滞債権額	6,419	3,757
3ヵ月以上延滞債権額	—	—
貸付条件緩和債権額	21,358	20,300
合 計	27,965	24,141
(貸付残高に対する比率)	(0.55)	(0.48)

- (注) 1. 破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、債権額から担保の評価額および保証等による回収が可能と認められる金額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しています。その金額は、平成22年度末が破綻先債権額91百万円、延滞債権額27百万円、平成23年度末が破綻先債権額91百万円、延滞債権額20百万円です。
2. 破綻先債権とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金（未収利息不計上貸付金）のうち、会社更生法、民事再生法、破産法、会社法等による手続き申立てにより法的倒産となった債務者、または手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、あるいは、海外の法律により上記に準ずる法律上の手続き申立てがあった債務者に対する貸付金です。
3. 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、上記破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸付金です。
4. 3ヵ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延しているもので、破綻先債権、延滞債権に該当しない貸付金です。
5. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行なったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金です。

(8) 保険会社およびその子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況  
(連結ソルベンシー・マージン比率)

(単位：百万円)

項 目	平成23年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	3,658,595
資本金又は基金等	645,433
価格変動準備金	251,328
危険準備金	491,151
異常危険準備金	7,229
一般貸倒引当金	6,374
その他有価証券の評価差額×90% (マイナスの場合100%)	1,074,407
土地の含み損益×85% (マイナスの場合100%)	227,166
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	819,420
負債性資本調達手段等	100,000
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—
控除項目	▲14,756
その他	50,839
リスクの合計額 $[(R_1^2 + R_5^2)^{1/2} + R_8 + R_9]^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2)^{1/2} + R_4 + R_6$ (B)	940,659
保険リスク相当額 R <sub>1</sub>	125,047
一般保険リスク相当額 R <sub>5</sub>	1,621
巨大災害リスク相当額 R <sub>6</sub>	469
第三分野保険の保険リスク相当額 R <sub>8</sub>	50,175
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R <sub>9</sub>	—
予定利率リスク相当額 R <sub>2</sub>	166,120
最低保証リスク相当額 R <sub>7</sub>	6,785
資産運用リスク相当額 R <sub>3</sub>	728,834
経営管理リスク相当額 R <sub>4</sub>	21,581
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	777.8%

- (注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条の2および第88条ならびに平成23年金融庁告示第23号の規定に基づいて算出しています。
2. 「最低保証リスク相当額」は、平成23年金融庁告示第23号第4条第5項に規定する標準的方式に基づいて算出しています。

## (9) 子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況（ソルベンシー・マージン比率）

明治安田損害保険株式会社

(単位：百万円)

項 目	平成22年度末	平成23年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	64,558	64,885
資本金又は基金等	55,919	56,072
価格変動準備金	63	75
危険準備金	30	34
異常危険準備金	7,303	7,229
一般貸倒引当金	0	0
その他有価証券の評価差額(税効果控除前)	373	688
土地含み損益	621	532
払戻積立金超過額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
払戻積立金超過額及び負債性資本調達手段等のうち、 マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	245	252
リスクの合計額 $\sqrt{(R1+R2)^2+(R3+R4)^2} + R5+R6$ (B)	3,164	2,712
一般保険リスク (R1)	1,593	1,621
第三分野保険の保険リスク (R2)	—	—
予定利率リスク (R3)	16	14
資産運用リスク (R4)	1,562	1,430
経営管理リスク (R5)	80	70
巨大災害リスク (R6)	840	469
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	4,079.8%	4,783.3%

(注) 平成23年度末の数値は、保険業法施行規則第86条および第87条ならびに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

なお、平成22年内閣府令第23号、平成22年金融庁告示第48号により、ソルベンシー・マージン総額及びリスクの合計額の算出基準について一部変更（マージン算入の厳格化、リスク計測の厳格化・精緻化等）がなされております。平成22年度末の数値は、平成23年度における基準を平成22年度末に適用したと仮定し、平成23年3月期に開示した数値です。

子会社等である保険会社の保険金等の支払能力の充実の状況  
(旧基準によるソルベンシー・マージン比率)

明治安田損害保険株式会社

(単位：百万円)

項 目	平成22年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	64,558
資本金又は基金等	55,919
価格変動準備金	63
危険準備金	30
異常危険準備金	7,303
一般貸倒引当金	0
その他有価証券の評価差額(税効果控除前)	373
土地含み損益	621
払戻積立金超過額	—
負債性資本調達手段等	—
控除項目	—
その他	245
リスクの合計額 $\sqrt{(R1+R2)^2+(R3+R4)^2} + R5+R6$ (B)	2,215
一般保険リスク (R1)	1,027
第三分野保険の保険リスク (R2)	—
予定利率リスク (R3)	3
資産運用リスク (R4)	826
経営管理リスク (R5)	53
巨大災害リスク (R6)	840
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	5,828.0%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条および第87条ならびに平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

(10) セグメント情報

当社および連結子会社は、生命保険事業以外に損害保険事業等を営んでいますが、当該事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、セグメント情報の記載を省略しています。